

令和4年度  
高等教育推進センター  
活動報告書

1	設置の経緯・目的.....	3
2	組織 .....	3
3	会議体.....	3
4	委員構成 .....	4
	（1）高等教育推進センター会議委員 .....	4
	（2）教育開発部門会議委員 .....	4
	（3）FD・SD 部門会議委員.....	4
	（4）教学 IR 部門会議委員.....	5
	（5）高大連携・初年次教育部門会議委員 .....	5
5	主な活動成果.....	5
	（1）「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」の認定取得 [教育開発部門] .....	5
	（2）ADEPT プログラムの履修者数・修了者数の増加 [教育開発部門].....	5
	（3）目標設定の意義を示す資料を作成し、学生・教員への周知 [教育開発部門] .....	6
	（4）ヨコハマ FD フォーラムの開催 [FD・SD 部門].....	6
	（5）基本方針の策定 [FD・SD 部門／教学 IR 部門].....	6
	（6）全国学生調査の分析 [教学 IR 部門] .....	6
	（7）高大連携事業の見直し [高大連携・初年次教育部門] .....	6
6	資料集.....	7

## 1 設置の経緯・目的

横浜市立大学には、金沢八景キャンパスを中心に国際教養学部・国際商学部・理学部・データサイエンス学部があり、福浦キャンパスには医学部がある。教育の質保証のためにそれぞれに教学 IR や FD・SD 等の教育に関連する委員会で議論し、必要な改善を行ってきた。しかしながら、教育内容が複雑化し、社会から要求される内容が高度化、多様化するにあたっては、大学として一貫性のある戦略をもって速やかに対応する必要がある。「新たな社会の創造をリードする大学」として教育の質を保証する機構、併せて教育改革を推進する全学横断的な組織として令和4年4月に「高等教育推進センター」を設置した。

## 2 組織

高等教育推進センターには、4つの部門を設置している。

### (1) 教育開発部門

(※教育開発部門の中に、データ思考教育班とグローバル教育班を設置)

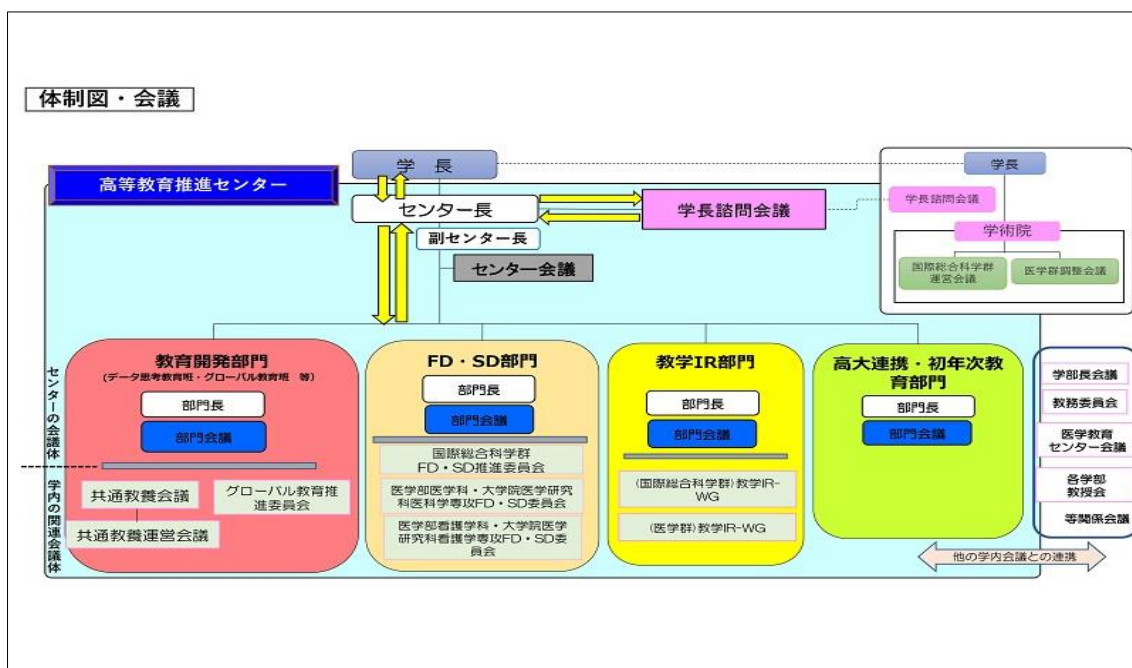
### (2) FD・SD 部門

### (3) 教学 IR 部門

### (4) 高大連携・初年次教育部門

## 3 会議体

高等教育推進センターに高等教育推進センター会議と各部門に部門会議を置いた。また、既存の学内委員会との連携の上でセンターの運営を行っている。



#### 4 委員構成

##### (1) 高等教育推進センター会議委員

氏名	役職
中條 祐介	センター長 兼 教育開発部門長
本多 尚	副センター長
船越 健悟	副センター長
小林 謙一	副センター長
横山 崇	FD・SD 部門長
土屋 隆裕	教学 IR 部門長
平井 美佳	高大連携・初年次教育部門長
出光 直樹	大学専門職（アドミッション課）
菊池 芳明	大学専門職（教育推進課）

##### (2) 教育開発部門会議委員

氏名	役職
中條 祐介	教育開発部門長
本多 尚	副センター長
船越 健悟	副センター長
小林 謙一	副センター長
山崎 眞見	データ思考教育班長
太田 壘	グローバル教育班長
出光 直樹	大学専門職（アドミッション課）
菊池 芳明	大学専門職（教育推進課）

##### (3) FD・SD 部門会議委員

氏名	役職
横山 崇	FD・SD 部門長
飯田 洋	医学教育学 講師
赤瀬 智子	看護学専攻長
菊池 芳明	大学専門職（教育推進課）
出光 直樹	大学専門職（アドミッション課）

#### (4) 教学 IR 部門会議委員

氏名	役職
土屋 隆裕	教学 IR 部門長
山田 剛史	国際教養学部 教授
藤田 浩司	臨床研修センター 講師
佐藤 政枝	基礎看護学 教授
出光 直樹	大学専門職 (アドミッション課)

#### (5) 高大連携・初年次教育部門会議委員

氏名	役職
平井 美佳	高大連携・初年次教育部門長
本多 尚	共通教養長
鈴木 伸治	国際教養学部長
大澤 正俊	国際商学部長
横山 崇	理学部長
山崎 眞見	データサイエンス学部長
寺内 康夫	医学部長
出光 直樹	大学専門職 (アドミッション課)
西村 英純 (アドバイザー)	日々輝学園高等学校 横浜校 校長

### 5 主な活動成果

#### (1) 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」の認定取得 [教育開発部門]

全学部の学生を対象とした「ADEPT プログラム (AI Data Science Education Program for Tomorrow)」が、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル)」に認定された。また、データサイエンス学部の学生を対象とした「データサイエンス人材育成プログラム」が、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (応用基礎レベル) プラス」に選定された。なお、応用基礎レベルプラスの選定は公立大学で唯一の選定であった。

#### (2) ADEPT プログラムの履修者数・修了者数の増加 [教育開発部門]

ADEPT プログラムを令和7年度以降は全学部生の 50%以上が履修することを目標とし、文部科学省へ申請をしており、認定取得後、以下のグループを定義し、学生への履修勧奨を行った。

- Group 1 : 「総合講義 (データサイエンス入門)」のみ受講すれば要件を満たす学生
- Group 2 : 必要な科目を履修済みで、参加申請・修了申請をすれば完了する学生
- Group 3 : 参加申請が完了している学生で、必要な科目の履修が完了している学生

その結果、令和4年度は全学部生の12%の履修を目標としていたが、令和4年度末時点で、目標を超える18%の履修となった。

### (3) 目標設定の意義を示す資料を作成し、学生・教員への周知 [教育開発部門]

令和4年度から YCU-Board が稼働し、YCU-Board に実装した目標設定機能については、学生・教員への目標設定の意義の浸透が課題であった。学生自身が考える未来の理想像を実現するために、目標設定を行い、取組を進めていく重要性を周知するポスターを作成し、YCU-Board 上に掲出することとした。

### (4) ヨコハマ FD フォーラムの開催 [FD・SD 部門]

ヨコハマ FD フォーラムは、4 大学間（横浜市立大学・神奈川大学・関東学院大学・横浜国立大学）で締結した「FD 活動の連携に関する包括協定」に基づいて、毎年実施しているが、令和4年度は本学が幹事校となって実施した。「新型コロナ禍の経験から、あらためて学生支援について考える -コロナ禍の学生生活と学修への影響-」をテーマに実施し、横浜4大学を含む全国から、教育機関の教職員・学生93名の参加があった。

### (5) 基本方針の策定 [FD・SD 部門/教学 IR 部門]

内部質保証体制の構築を進め、教学改革を推進していくために、FD・SD と教学 IR の本学の基本方針を定めた。

### (6) 全国学生調査の分析 [教学 IR 部門]

令和3年度「全国学生調査（第2回試行実施）」について、各設問項目の中で全国平均を上回る項目は、「本学の研究力向上に資する項目」や、「英語力やデータ思考力等の本学が注力している項目」であった。一方で、全国平均を下回った項目は、「自主学習についての指示」や「提出物への適切なコメント」であり、授業運営に関する項目が課題であることが明確になった。

### (7) 高大連携事業の見直し [高大連携・初年次教育部門]

平成19年に横浜市立大学と横浜市教育委員会は横浜市立高等学校との教育連携に関する協定を締結し、高大連携事業を実施している。横浜市立金沢高等学校、横浜市立横浜商業高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、横浜市立南高等学校を重点校に位置づけ（横浜市立南高等学校は平成27年度に追加）、高大連携事業を展開してきた。横浜市立南高等学校の重点校の位置づけについては、令和4年度末で発展的解消とし、今後は、重点校以外の高等学校にも「大学の学び」に触れる機会を提供する検討を開始した。

## 6 資料集

- (1) 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」認定 記者発表資料
- (2) 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」(リテラシーレベル) 申請書
- (3) 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」(応用基礎レベル) 申請書
- (4) 目標設定周知ポスター
- (5) 第8回ヨコハマ FD フォーラム 記者発表資料
- (6) 第8回ヨコハマ FD フォーラム チラシ
- (7) 横浜市立大学 FD・SD に関する基本方針
- (8) 令和4年度 FD 関連講演会等実績
- (9) 横浜市立大学教学 IR に関する基本方針
- (10) 令和4年度教学 IR 実施報告書
- (11) 令和4年度横浜市立大学と横浜市立高校の高大連携活動報告書